

松浦鉄道沿線地域公共交通総合連携計画

平成20年6月

佐世保市 伊万里市 平戸市 松浦市
有田町 江迎町 鹿町町 佐々町

1 . 本計画の位置づけ

本地域は、わが国の他の地域と同様に少子高齢化が進行しており、高齢化の進行はわが国の水準を上回っております。また、若年層の転出などにより、全国に先んじて人口が減少してきており、今後もこのような状況が続くと予想されます。

高齢化の進展が、保健、医療、福祉の需要を拡大させる一方で、少子化や人口減少の進行が加わることによって、働く世代の負担が重くなるなど、経済成長の鈍化や地域社会の活力の維持に大きな影響をもたらします。多様化する福祉、教育、環境などのニーズに対応しつつ、地域経済の活力を維持するための展開が求められています。

交通機関や道路交通網、情報通信技術の発展などに伴って、地域に暮らす人々の日常生活や経済活動の範囲はより広域化しています。日常の通勤や通学、通院、買物などはすでに市や町の区域を越えて大きく広がっています。企業における経済活動はもとより、住民の活動や地域のイベントなどにおいても活動範囲は広域化しています。

松浦鉄道沿線自治体から多くの方が、近隣の市町村に通勤、通学しており、通院、買物を含め松浦鉄道沿線自治体はすでに一体的な圏域を形成しています。これらの活動基盤となる環境を整えていくことが求められており、日常生活や、経済活動圏に見合った交通体系が必要となります。

このような背景のもと、本計画は、松浦鉄道沿線自治体における総合的かつ効率的な交通体系の構築に向け、市民ニーズや地域の現状等を把握した上で、既存公共交通機関どうしの連携による交通体系づくりと交通事業者や関係機関、地域住民が連携し松浦鉄道沿線を中心とした交通分野の施策を具体化するという位置づけの計画です。合わせて当面5ヶ年のプログラムとして、公共交通利用活性化に向けた取り組みの流れや内容をまとめたものとなっております。

松浦鉄道沿線地域を中心とした生活交通の現況



2. 松浦鉄道沿線自治体を取り巻く情勢

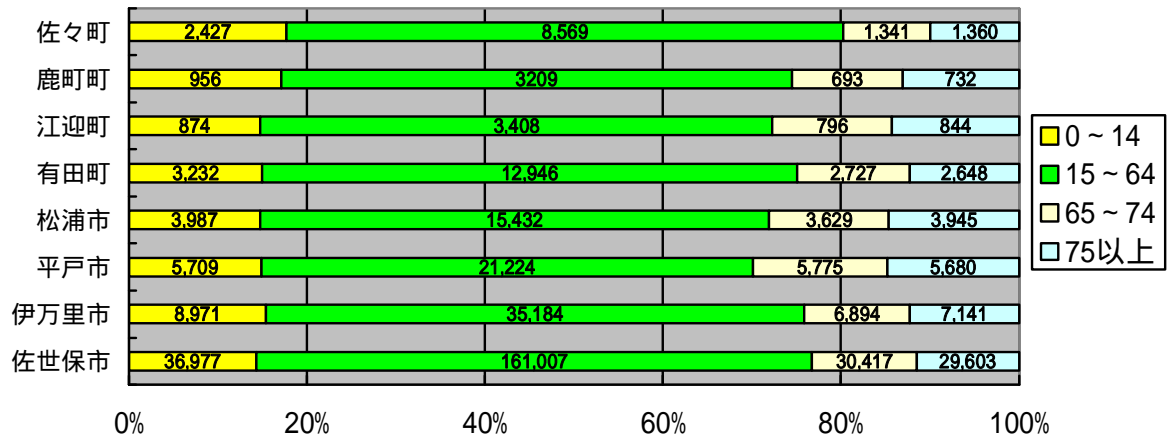
(1) 沿線自治体の特性

人口（平成 20.4.1 現在）

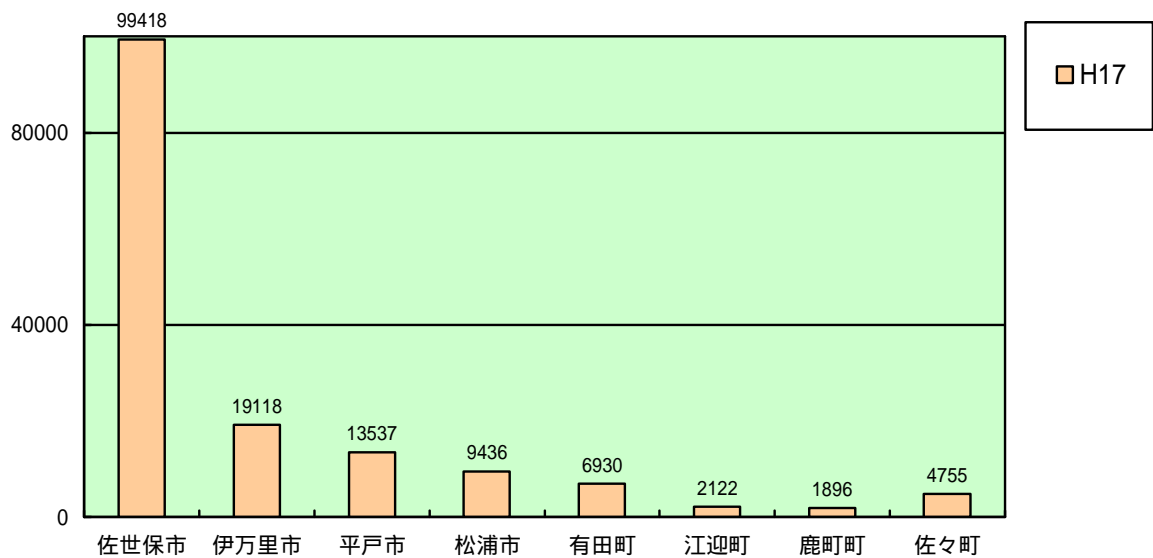
（人）

佐世保市	伊万里市	平戸市	松浦市	有田町	江迎町	鹿町町	佐々町	合 計
252,207	57,310	36,320	25,834	21,193	6,086	5,149	13,684	417,783

年齢別人口（平成 17 年国勢調査）



世帯数（平成 17 年度国勢調査）

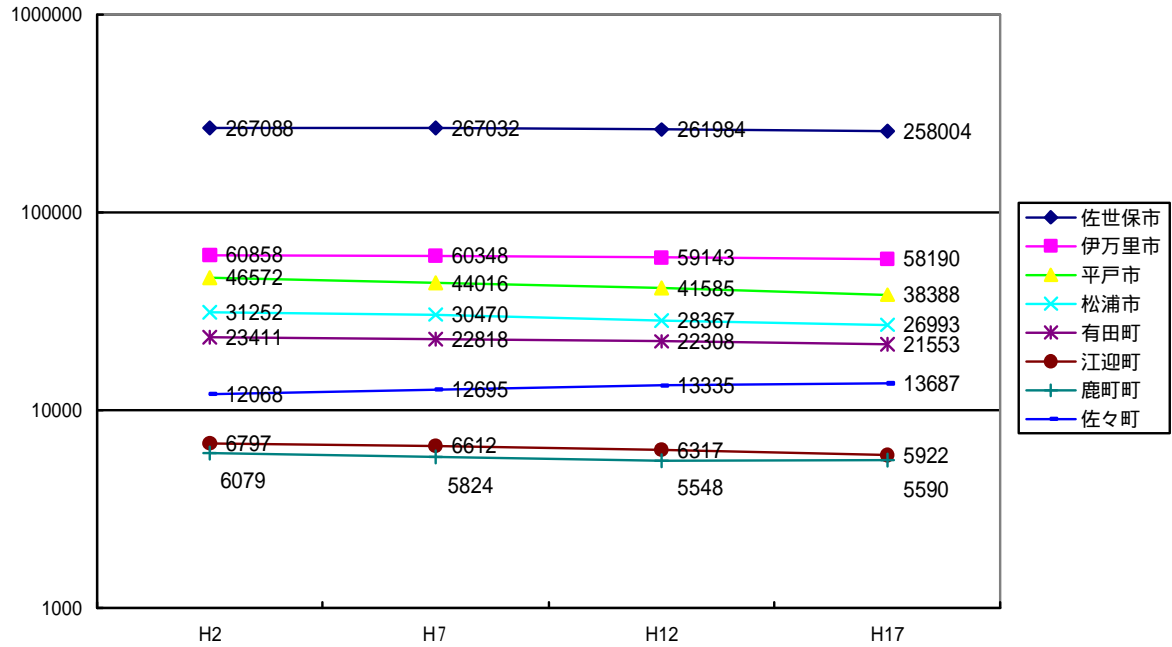


面積（出典：沿線自治体提供データ）

(km²)

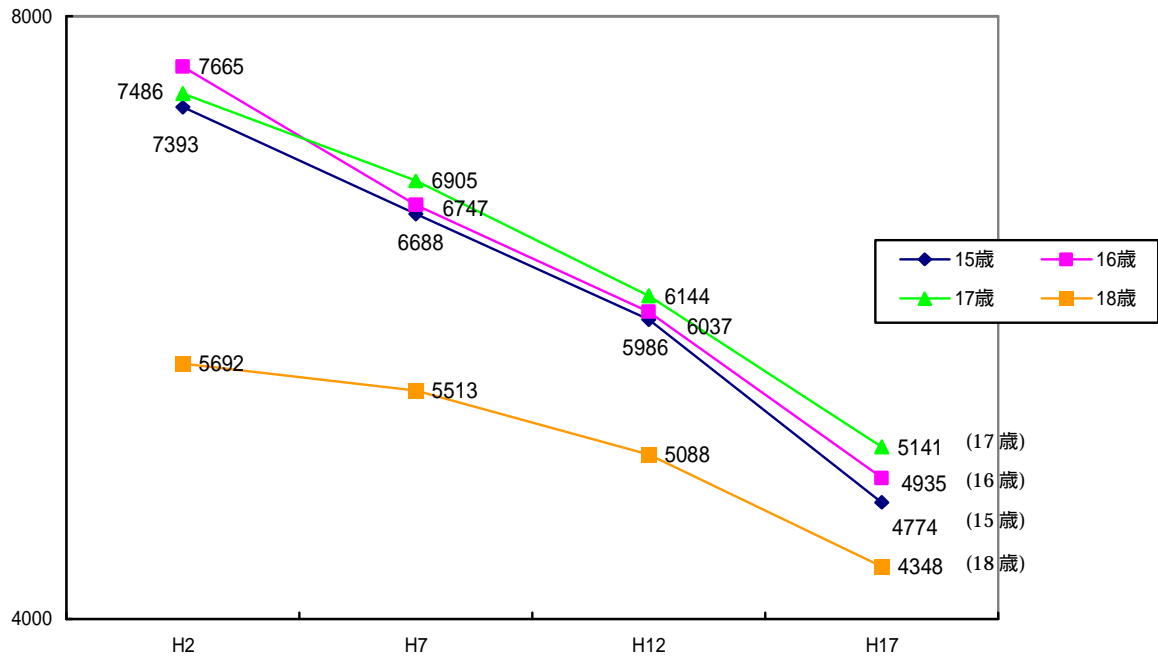
佐世保市	伊万里市	平戸市	松浦市	有田町	江迎町	鹿町町	佐々町	合計
364	254	235	130	65	32	30	32	1,142

(2) 各沿線自治体の人口の推移 (平成2年～17年度国勢調査より)

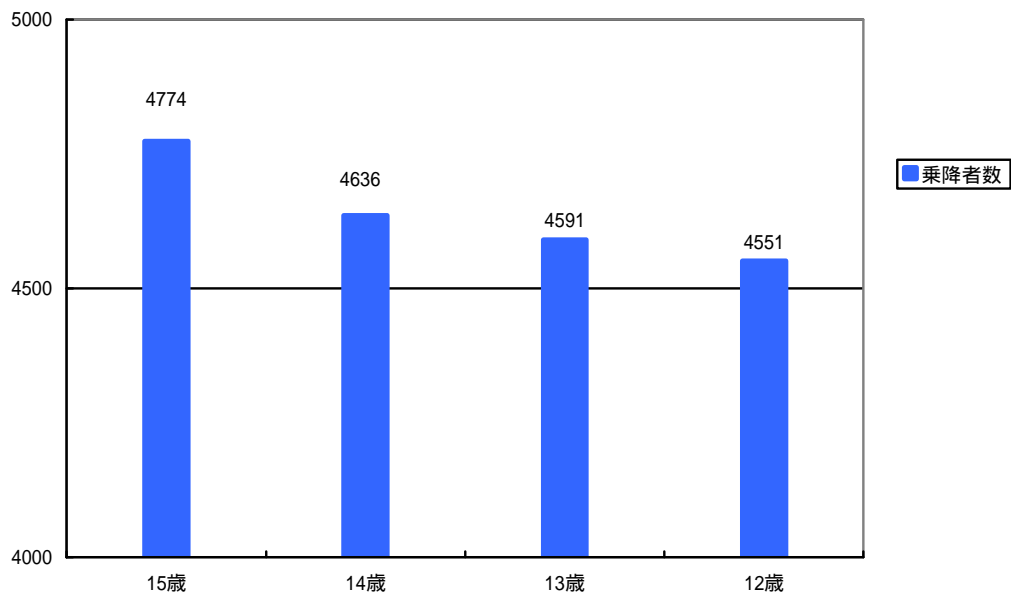


(3) 公共交通機関の主な利用者(学生)推移

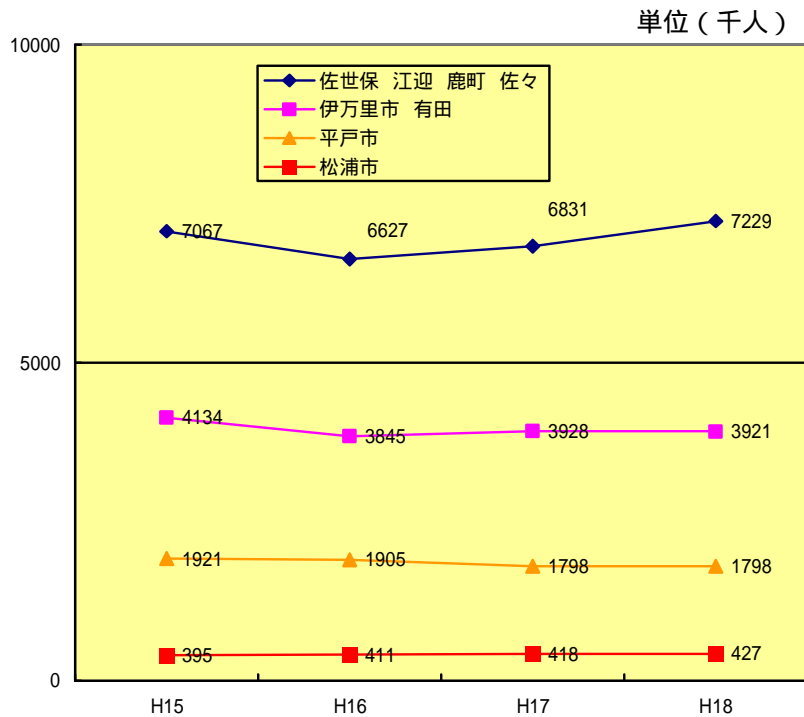
過去5年毎の推移(沿線自治体の合計人口)(平成2年～17年度国勢調査より)



(4) 今後の主な利用者(学生)の人口推移傾向
 (各自治体の年齢ごとの合計人口 H17 国勢調査)



(5) 各沿線自治体の年次別観光客のべ人数
 (出典：沿線自治体提供データ)



3. 現状及び課題

前述の将来交通体系を実現し、持続可能なものとしていく上での課題を以下に整理します。

課題 公共交通機関の主な利用者（学生）数の減少

鉄道、バスについての主な利用者である15歳～18歳にあたる高校生の人口推移について、前回の国勢調査と今回の国勢調査の推移でみると、17%以上の減少となっている。また、ここ数年後に学生となる年齢の人口をみても、年々減少していく傾向がみてとれ、確実に今のままであれば、公共交通機関の利用者数が減っていくことが予測される。

課題 国鉄・JRから引き継いだ施設の老朽化及び車両等の老朽化

国鉄・JRから第三セクターとして昭和63年4月から営業を開始した松浦鉄道においては、開業以来毎年、鉄道事業の営業費用のおよそ40%に相当する3億円前後の修繕費を費やし、施設整備を行ってきたにもかかわらず、施設の経年劣化の速度に追いつけず老朽化が進行している。

また、車両は第三セクター鉄道向けに開発された軽量小型安価のもので、法定耐用年数11年を超えて使用しているため故障が多くなっている。

こういった自力体力のない地方鉄道に対して、国は以下のような施設整備に対して補助事業を行っている。

- ・ 保安度の向上に資する設備の整備(緊急保全整備事業)
- ・ 経費節減及びサービス改善効果が著しく地方鉄道の活性化に資する設備の整備

松浦鉄道が計画している施設整備については、上記の目的と合致したものであり、平成16年度～25年度の10年間で実施中であるが、莫大な経費がかかることから国の支援のほか、長崎県、佐賀県及び4市4町（佐世保市、伊万里市、平戸市、松浦市、有田町、江迎町、鹿町町、佐々町）からも支援を受けているのが、実情である。しかしながら、国の優先的な補助事業であった緊急保全整備事業も平成20年度で終了するため、25年度までの整備計画が完了するための財源について不足することが予測される。



課題 輸送人員・運輸収入の減少

松浦鉄道では大幅な利便性向上策の効果で平成8年まで輸送人員及び運輸収入が増加し続けていたが、マイカーの増加・少子高齢化・過疎化・不況等の影響により輸送人員が減少しており、平成9年以降は上記の外的複合的要因のために輸送人員、運輸収入とも減少に転じている。

九州旅客鉄道の乗車人員においては、佐世保駅はここ数年横ばいの状況が続いている。また、有田駅においては、ここ数年減少傾向であったが平成18年度で下げ止まっている。

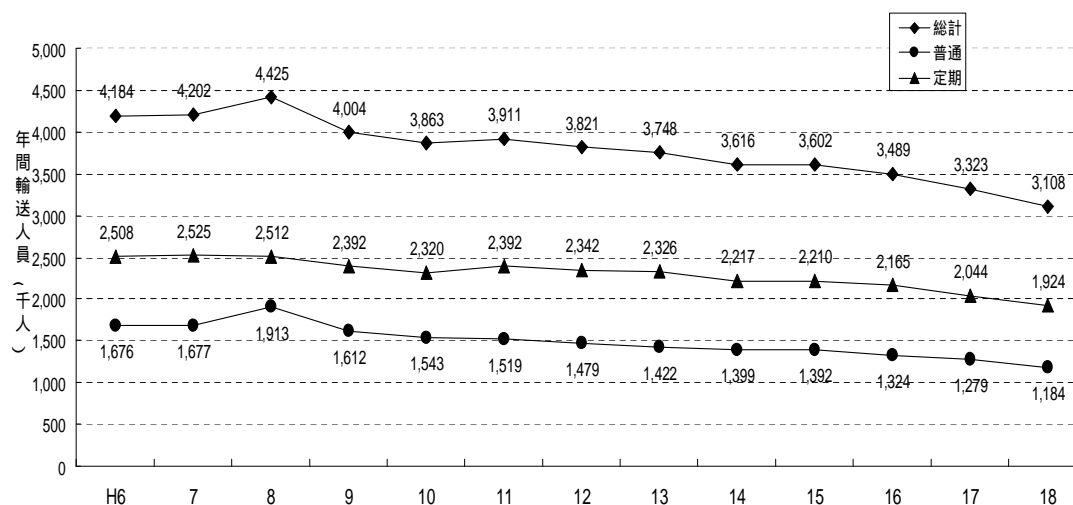
主なバス事業者である西肥バスは、マイカーからの転換を目的として、平成16年度に通勤定期券の割引率引き下げ、敬老フリー定期券『リフレッシュバス65』の発売を実施し、一定の効果は上がっているものの、課題でも記述しているように主要旅客である学生数の減少が続いており、生活路線の維持が困難な状況となっている。

松浦鉄道の輸送人員の推移

年間輸送人員

(単位:千人)

年度	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年
通勤	314	361	316	322	293	295	278
通学	2,194	2,151	2,004	2,020	1,924	1,870	1,646
普通	1,676	1,913	1,543	1,479	1,399	1,324	1,184
計	4,184	4,425	3,863	3,821	3,616	3,489	3,108



課題 松浦鉄道沿線地域への観光客の呼び込み

ここ数年の観光客数の推移をみると、目立った減少は見られておらず、平成18年度は平成17年度に対し3%増加している。しかし、全国的に有名な大型リゾート施設であるハウステンボスの入場者数の伸びを調査してみると、平成18年度は平成17年度に対しさらに増加の伸び率は大きく5%であった。

このことから観光客の足をさらに松浦鉄道沿線地域へ伸ばすことができれば、公共交通機関の利用者数の増加に貢献できるものと思われる。

4. 松浦鉄道沿線地域公共交通総合連携計画の区域

この計画の区域は、下記市町全域とする。

松浦鉄道沿線	佐世保市	伊万里市	平戸市	松浦市
自治体名	有田町	江迎町	鹿町町	佐々町

5. 基本方針

交通公共機関の現状と課題を踏まえて、基本方針を以下のように設定します。

基本方針 交流人口の増大

それぞれの公共交通機関が、松浦鉄道沿線住民だけを対象として、経営努力による公共交通事業を継続していくには、経営環境が年々厳しさを増している状況の中では、一定の限界があると考えます。よって、沿線外の人々を呼び込み、交流人口の増大を図り、持続可能な経営を維持するため、関係自治体のみならず、地域の官民を挙げて、地域全体で松浦鉄道および関係公共交通機関を支え、維持していく体制を整えていくよう努めます。

基本方針 公共交通機関の維持存続

地域の代表的な交通機関である松浦鉄道は、経営環境が厳しさを増す中、若干の累積黒字ではありますが、自身において、老朽化した施設の整備、車両の整備・更新を実施していく経営的余力はないと判断されます。松浦鉄道を維持存続させていくためには、国の補助制度の下、県及び関係自治体へ財政支援を要請し、更新時期にある車両や老朽施設を更新・整備し、鉄道輸送の安全性を確保していくことが必要です。

また、生活維持路線として必要と認められるバス路線及び航路については、国・県及び関係自治体との連携の中で、赤字路線に対する損失補てんを各種補助制度の中で、今後も継続していくことが必要です。

基本方針 地域との連携

関係自治体は、地域にとって必要不可欠な公共交通機関を、今後も、地域住民の移動手段として維持するために、国及び地域の各種団体・民間企業・住民等と連携して、多方面で協力・連携・支援していく必要があります。

6. 松浦鉄道沿線地域公共交通総合連携計画の目標

経済状況や社会構造の変化に伴い、鉄道を含む公共交通の位置づけも変質してきています。かつて、鉄道やバスといった公共交通機関は通勤・通学の足として、安全確実な移動を提供することが求められてきました。しかし、モータリゼーションが進展し、安全確実に移動できるだけでは「魅力的」とは言えなくなり、マイカーに対抗する優位性・付加価値が必要となってきています。各公共交通機関は厳しい経営環境にあるものの、その必要

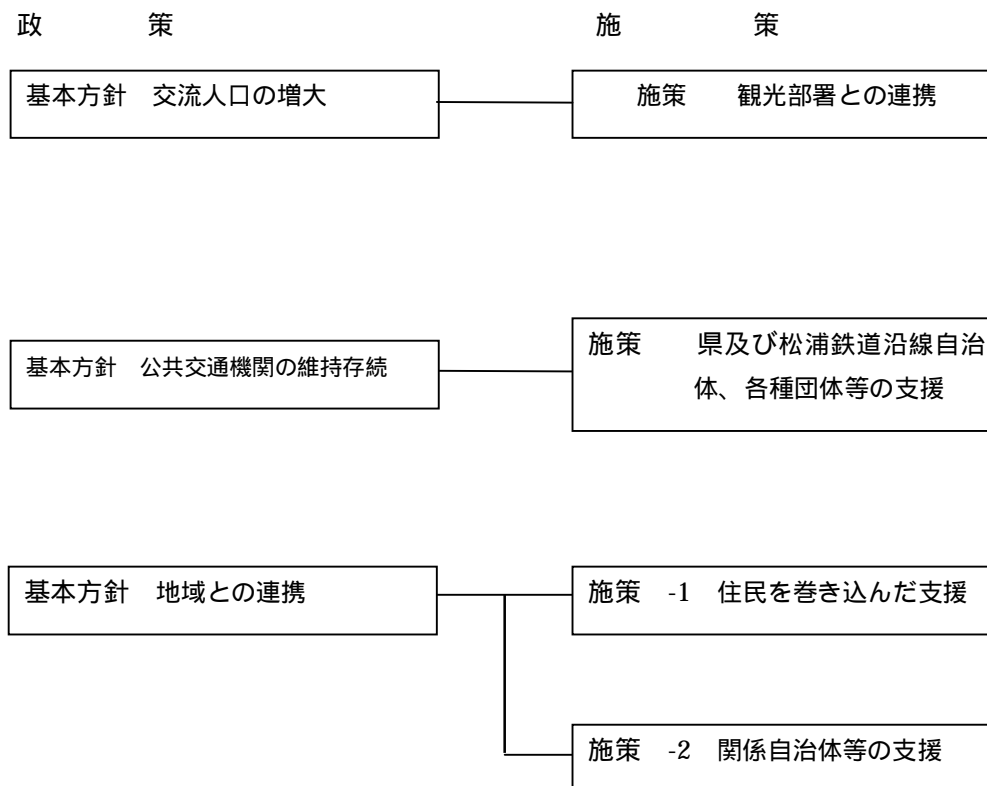
性自体が減退しているものではなく、逆に今後は高齢化の進展により、マイカーでの移動が困難な人々に対応できる交通手段として公共交通機関へのニーズはより高まると予測されます。さらに地球温暖化対策等環境対策において、環境負荷の少ない交通機関として存在意義を発揮することが可能であります。

公共交通機関事業者は、その経営基盤をより強固にし、安全で利便性が高いサービスを提供することで、地域の活性化の一翼を担い、地域住民の生活の維持・向上に寄与することが公共機関の果たすべき使命であると考えます。

公共交通機関は、安全・安心な地域の住民の移動手段として、人と環境に優しく、地域の交流人口を増加させ、地域の活性化に寄与するものであるため、積極的に利用促進を推進することにより、利用者の減少に歯止めをかけ、ひいては利用しやすく市民に親しまれる公共交通とすることを目標とします。

	現況値（H18）	目標水準（H22）	目標設定根拠
松浦鉄道利用者数	3,108千人/年	2,867千人/年	年間2%の減以内に維持
バス利用者数	12,057千人/年	11,125千人/年	現状の推移による

7. 基本方針を踏まえた具体的方策



8. 施策の内容

(1)長崎県、佐賀県及び松浦鉄道沿線自治体からの支援（施策 施策 -1）

ア 松浦鉄道設備整備事業に対する補助（施策 ）

- ・ 国鉄・JRから引き継いだ設備や初期に購入した車両は老朽化が進んでいる。設備整備や車両更新に松浦鉄道独自で多額の経費を捻出することは経営に大きな負担を課することになります。そこで、国や関係自治体が一体となり老朽化設備の修復、施設の維持管理、車両更新に対して可能な限り補助を行っています。

イ 松浦鉄道活性化に寄与する支援事業

- ・ 松浦鉄道マイレールフォト&絵画コンテストの開催（施策 ）
- ・ MR健康ウォーキングの支援（施策 -1）
- ・ 駅の花いっぱい運動の展開（施策 -1）

(2)イベント車両の導入（施策 ）

松浦鉄道は佐賀県の西部と長崎県北西部を結ぶ松浦鉄道は地域の通勤・通学の足としてかけがえの無い存在です。しかしながら、少子化やモータリゼーションの影響で利用者は減少傾向にあります。このような状況において、多種多様なイベント列車の運行を企画することによって、交流人口の増加を図る事は、鉄道会社の存続は元より地域の浮揚に大きく貢献することになります。

沿線地域以外からの遠方からの観光客の入込みを目的とし、新しく、快適な乗り心地を提供するために、新車両の購入を基本に考えます。また、事前に宣伝を大々的に行い、ラッピングや飾り付け等を準備する必要性から、急な故障等は許されず、安定したイベント開催をするためにも故障の多い、中古車両ではなく、新車両を想定しています。結婚式やカラオケ列車、地域の子どもの遠足の足として、また景色を楽しみながらの各種、個展や展示会の開催にも使っていただけます。

(3)JR九州との連携（施策 -2）

JR九州と松浦鉄道の連携については、松浦鉄道の車両の老朽化に伴い、佐世保駅～ハウステンボス駅間の乗り入れを休止中です。今後、松浦鉄道の車両更新が進むことで、早期再開の検討を松浦鉄道とJR九州で行う予定です。又、有田駅・伊万里駅・佐世保駅での乗り継ぎに付いては両者がダイヤ改正の都度協議を行い、スムーズな乗換を実現し利便性向上に努めるよう検討します。また、イベント行事についてもJR九州と松浦鉄道と共同で相乗効果を期待して企画を検討予定です。

(4)観光部署との連携（施策 ）

松浦鉄道沿線地域を、長崎県北部と佐賀県西部の観光の基幹ルートとし、松浦鉄道の列車の旅自体と沿線観光資源を組み合わせる様々な観光商品を作って、全国の旅行会社で販売される予定です。現在、主に実施しているものとしては、鉄道乗車券とウォーキングを組み合わせたエコ観光商品で、地元の商店街で買い物をすると割引がある等の商店街と連携した事業であります。その他、他の公共交通機関と組み合わせえた観光商品も検討する等、列車利用のみならず、ひいては、沿線地域全体の観光による活性化を実現するよう検討します。

また、松浦鉄道沿線地域で行うイベントやお祭りに合わせて、松浦鉄道、西肥バス、旅客船等の臨時増便を行ったり、各公共交通機関どおしの連携についてのPRも合わせて行うように計画検討します。公共機関のみ利用してイベントやお祭りにこられた方への特典を検討する等、アイデアを広く募集することも検討します。

(5)ノーカー・ノー残業デーの推奨（施策 -2）

沿線自治体が「マイカー通勤と残業をしないよう（ノーカー・ノー残業デーにしましょう）」という日を設け、バスまたは鉄道を利用して出勤し、環境負荷の低減を図ります。これは沿線自治体職員に対して推奨することだけでなく、広報誌及びホームページ等を利用して住民へPRすることも含めて推奨するものとします。

国についても「マイカーやトラック輸送に依存しすぎた交通体系から環境負荷が小さい公共交通への転換を図る新たな交通体系の構築」を求めています。

(6)パークアンドライド用駐車場の利用促進（施策 -2）

駅周辺に限らず、バスターミナルや規模の大きな停留所、旅客船の船着場近くの駐車場の利用のPRを行い、マイカー利用者を鉄道やバスに結びつけることによって公共交通機関利用者を増やし、併せてマイカーの中心市街地への乗り入れを削減し、交通渋滞や排気ガスを減らします。

(7)花いっぱい運動（施策 -2）

自治体が桜や市・町の花を駅構内の遊休地に植樹し、季節ごとの花の名所駅にし、駅を観光資源にする。地域住民・ボランティアの方にも参加をお願いします。

(8)広告用ペインティング車両の利用促進（施策 -2）

各自治体又は企業がそれぞれ車両等を使ってペインティングをすることで、自治体の施策をPRしたり、企業の宣伝に利用し、交通事業者の広告収入につながるよう検討します。又、車内には専用のラックを設置し広報誌やパンフレットを設置する等の工夫も

考えられます。自治体や企業だけでなく、各種団体や個人の絵画や写真の展示・PR放送も受け付ける等、地域との連携を目指します。

(9)アクセスの充実（施策 -2）

佐々駅、たびら平戸口駅、松浦駅、伊万里駅等の拠点駅では松浦鉄道・バス・タクシー・旅客船等の交通事業者と連携してアクセスの充実を図ります。

(10)共通乗車券等の導入検討（施策 -2）

現在、佐世保市営バス、西肥バスでは共通のICカードを活用して運賃支払いが可能となっており、自社路線間の乗り継ぎ運賃の割引サービス等に取り組んでいます。今後は、松浦鉄道沿線地域でも、例えば、西肥バス、松浦鉄道、旅客船等で共通して乗車できるような共通乗車券の導入や、他の交通事業者とタイアップした付加価値のある乗車券の考案等、松浦鉄道沿線自治体と交通事業者がいっしょになって検討を行います。

9. 松浦鉄道沿線地域公共交通総合連携計画の目標達成のための
事業の概要及び事業の実施主体

(1) 長崎県・佐賀県及び松浦鉄道沿線自治体からの支援による事業	
実施主体	長崎県、佐賀県、佐世保市、伊万里市、平戸市、松浦市、有田町、江迎町、鹿町町、佐々町、松浦鉄道
事業目的	老朽化車両の更新 老朽化設備の整備、更新 地域との連携支援
事業内容	26両のうち老朽化の進んだ21両の車両を更新 レールの重量化、橋梁改修、斜面防護、車載器取替 マイレールフォトコンテスト&絵画コンテスト支援 MR健康ウォーキング支援 駅の花いっぱい運動支援

(2) イベント車両の導入	
実施主体	長崎県、佐賀県、佐世保市、伊万里市、平戸市、松浦市、有田町、江迎町、鹿町町、佐々町、松浦鉄道
事業目的	イベント車両を活用し、顧客拡大による収益の確保
事業内容	観光列車としての運用(お客さま係(沿線観光案内係)の乗務、案内放送の実施) ちびっこ見聞録列車(鉄道施設見学、沿線の名所・旧跡学習) 団体貸切列車(会議、カラオケ、発表会等) 花鳥風月グルメ列車(沿線の桜や菜の花等の季節に合わせた団体列車設定) 車内電装列車(クリスマスや年末年始の各地のイルミネーションに合わせた飾り付け、DVDによる観光地放映) 各地のお祭りやイベントに合わせた臨時列車運行

(3) J R 九州との連携	
実施主体	松浦鉄道 J R 九州
事業目的	佐世保駅での松浦鉄道の乗入再開によるお客さまの利便性向上 有田駅、伊万里駅、佐世保駅での接続確保
事業内容	列車ダイヤ(乗入本数、時刻、車両運用等)の検討、可能なら実施 お客さまからの要望聴取 M R ・ J R 間の連携強化 J R 健康ウォーキング協賛

(4) 観光部署との連携	
実施主体	佐世保市、佐々町、江迎町、鹿町町、平戸市、松浦市、伊万里市、有田町の各観光協会及び観光課、各関係交通機関
事業目的	松浦鉄道沿線自治体への観光流動人口拡大 沿線自治体のイベント(祭り)宣伝 イベントにあわせた交通機関の臨時増便
事業内容	各沿線観光地をめぐる観光商品の P R 各交通機関連携による観光イベントに合わせたダイヤの設定 ○各交通機関の車内に宣伝広告実施

(5) ノーカー・ノー残業デーの推奨	
実施主体	佐世保市、佐々町、江迎町、鹿町町、平戸市、松浦市、伊万里市、有田町の各自治体
事業目的	公共交通機関の利用促進と地球温暖化対策 松浦鉄道沿線自治体が市民に対してホームページや広報誌等を利用し、環境保全意識の向上を図る。
事業内容	沿線の各自治体及び各事業所に、1週間に1日「マイカー通勤と残業をしない(ノーカー・ノー残業デー)」といった日を設けてもらい、公共交通機関を利用した通勤を推奨する 公共交通機関を積極的に利用して地球環境負荷の低減を試みる 各種広告媒体を通じたキャンペーンの実施等により普及・啓発を行う。

(6) パークアンドライド用駐車場の利用促進	
実施主体	佐世保市、佐々町、江迎町、鹿町町、平戸市、松浦市、伊万里市、有田町の各自治体・各関係交通機関
事業目的	マイカー利用者を各交通事業者の駐車場等に結びつけることにより公共交通利用者を増やし、併せてマイカーの中心市街地への乗入を削減し、交通渋滞や排気ガスを削減し地球環境負荷の低減を試みる
事業内容	各関係交通機関および各自治体の所有地（又は駐車場）に車を駐車し公共交通機関で通勤する新たな通勤スタイルを各沿線事業所へ推奨するためのPRを行う

(7) 花いっぱい運動	
実施主体	佐世保市、佐々町、江迎町、鹿町町、平戸市、松浦市、伊万里市、有田町の各自治体及び各自治会や各種団体
事業目的	駅構内や駅周辺を季節毎の草花でいっぱいにし、新たな観光資源とすることにより、観光流動人口を増やす
事業内容	各駅構内や駅周辺の遊休地に、桜や紅葉樹や草花を植樹し、季節毎の花の名所駅にし、駅自体を観光資源化する

(8) 広告用ペインティング車両の利用促進	
実施主体	佐世保市、佐々町、江迎町、鹿町町、平戸市、松浦市、伊万里市、有田町の各自治体、各種交通機関
事業目的	車両等を広告素材として活用し、新たな収益を確保する又車両をペインティングすることにより、沿線住民の公共交通機関への意識を高め公共交通機関の利用促進につなげる
事業内容	沿線各自治体や各事業所に車両等を丸ごと広告媒体として利用してもらう 車両等外観をPRのペインティング加工する 車内には広告専用のラックを設け、広報誌やパンフレットを掲示する 絵画展や写真展やPR放送も受け付ける

(9) アクセスの拡充	
実施主体	松浦鉄道、ＪＲ九州、西肥バス、鷹島汽船、黒島旅客船等 佐世保市、佐々町、江迎町、鹿町町、平戸市、松浦市、伊万里市、有田町の各自治体
事業目的	松浦鉄道沿線各地での地域交通機関との接続確保
事業内容	利用者及び地域住民からの要望聴取 利用者ニーズに合わせたダイヤの設定 MRと各交通機関相互の連携強化 《P-2の生活交通の現況図の連携箇所参照》

(10) 共通乗車券等の導入検討	
実施主体	松浦鉄道、西肥バス、ＪＲ九州、旅客船
事業目的	他の交通機関との連携により、利用者の利便性向上を図る 運賃補脱防止 乗降人員調査等のデータ管理の効率化
事業内容	沿線自治体の「共通乗車券等導入」での連携～利用者の選択幅の拡大による利便性向上

10. 地域交通計画の実現に向けた5ヵ年プログラム（主な取り組み）

個別施策	実施プログラム				
	H20	H21	H22	H23	H24
1) 松浦鉄道整備事業に対する補助	施設整備事業計画により実施	施設整備事業計画により実施	施設整備事業計画により実施	施設整備事業計画により実施	施設整備事業計画により実施
松浦鉄道マイルフォト&絵画コンテストの開催	毎年9月に開催し鉄道祭りで表彰(H20周年記念行事)	毎年9月に開催し鉄道祭りで表彰(H20 優秀賞イベント)	毎年9月に開催し鉄道祭りで表彰	毎年9月に開催し鉄道祭りで表彰	毎年9月に開催し鉄道祭りで表彰
MR 健康ウォーキングの支援	ウォーキングの年間計画の周知(健康ウォーキングメニュー)	ウォーキングの年間計画の周知(新規メニュー)	ウォーキングの年間計画の周知(新規メニュー)	ウォーキングの年間計画の周知(新規メニュー)	ウォーキングの年間計画の周知(新規メニュー)
駅の花いっぱい運動の展開	沿線の地区協力会毎に実施(HP掲載)	沿線の地区協力会毎に実施(人気投票・表彰)	沿線の地区協力会毎に実施(HP 継続掲載)	沿線の地区協力会毎に実施(HP 継続掲載)	沿線の地区協力会毎に実施(HP 継続掲載)
2) イベント車両の導入	結婚式・カラオケ、遠足等	結婚式・カラオケ、遠足等	結婚式・カラオケ、遠足等	結婚式・カラオケ、遠足等	結婚式・カラオケ、遠足等
3) JR九州との連携	乗入れ・利便性向上について協議(可能なら実施)	乗入れ・利便性向上について協議(可能なら実施)	乗入れ・利便性向上について協議(可能なら実施)	JR九州とのダイヤ作成	
4) 観光部署との連携	・観光商品の開発及び観光快速列車の運行 ・各交通機関への調査(イベント、祭り)	観光商品の開発及び観光快速列車の利用実態に即した運行の検証 ・PRの検討	観光商品の開発及び観光快速列車の利用実態に即した運行の検証 ・具体案提示、実施	観光商品の開発及び観光快速列車の利用実態に即した運行の検証 ・PRの推進	観光商品の開発及び観光快速列車の利用実態に即した運行の検証 ・PRの推進
5) ノーカー、ノー残業の推進	沿線自治体で検討(ノーカーデー1回/月)	沿線自治体で検討(ノーカーデー2回/月)	沿線自治体で検討(ノーカーデー4回/月)	沿線自治体で検討(ノーカーデー4回/月)	沿線自治体で検討(ノーカーデー4回/月)
6) パークアンドライド用駐車場の利用促進	PRの推進 駐車場の整備促進	PRの推進 駐車場の整備促進	PRの推進 駐車場の整備促進	PRの推進	PRの推進
7) 花いっぱい運動	沿線自治体で検討	沿線自治体で検討	沿線自治体で検討	沿線自治体で検討	沿線自治体で検討
8) 広告用ペインティング車両の利用促進	沿線自治体・企業で検討	沿線自治体・企業で検討	沿線自治体・企業の広告実施	沿線自治体・企業の広告実施	沿線自治体・企業の広告実施
9) アクセスの充実	関係交通事業者と協議	関係交通事業者と協議	連携ダイヤ作成	連携ダイヤ作成	ダイヤ利用実態調査
10) 共通乗車券等の導入検討	導入に関する調査	導入に関する協議	具体案の提示	運用開始	継続運用